

????????126?7550??3??????????

??2007??200
99????????2007??3????????????????????????????????????
????????????????????????????????????680????????????273????????2.5????????????????????????????2,3,4,7????
????????????????????????????

????????????????????????????6????7????????2????????????????????????????????

??

??
??3????????????????????
??
??1.5????????????????
??????1.0????????????????

添付表1 東京電力福島第一原子力発電所 事故の分析結果

No	項目	規制委の見解	国会事故調等が指摘した問題
1	事故原因は地震か津波か	タービン建屋入口近くの A 系配電盤が津波で濡れて開閉器の配列位置により直流電源、交流電源の順に停電したと推定される。停電時間は津波浸水時刻と概ね一致する。	津波到達時刻が発電所への津波到達時刻と不一致。A系非常用 DG 停止の原因は津波ではない可能性がある。
2	1号機の小さな配管漏洩の有無	小さな配管漏洩があったというデータはない。仮にあって10時間程度での冷却材漏洩は2.3トンで炉心損傷にはならない。	小さな配管漏洩を放置すると10時間で数10トンの冷却材がもれ炉心溶融に至る可能性がある。
3	1号機の出水	1号機の出水は、使用済燃料プールのスロッシングによるものと断定。	地震発生直後の1号機で出水があった。出水元は使用済燃料プールではないのではないかと。
4	逃し安全弁の不作動可能性	津波到達約5.4時間後の測定値は、逃し安全弁の作動圧付近。よって、逃し安全弁が作動したと考えることが妥当。	1号機の逃し安全弁は動作しなかった可能性がある。
5	1号機非常用復水器(IC)の作動状況	理論的には、政府事故調の指摘通り交流駆動弁が閉止するシナリオはありうる。 津波到達以降 IC 隔離弁の状態は以下のように考えられる。 ・直流駆動弁(2A, 2B)は開から閉。 ・交流駆動弁(1B, 4B)は、開のまま。 ・交流駆動弁(1A, 4A)は現状不明。	政府事故調報告書: ICは両系とも配管破断検出回路の直流電源が停電し、Fail-Safe 機能で弁が閉止したと考えられる。 国会事故調報告書: 直流電源は交流より先に停電しない。政府事故調が考える Fail-Safe 機能は原理的に不可能。
6	使用済燃料の臨界の可能性	① 使用済燃料プール内の燃料集合体等に大きな損傷はない。 ② 使用済燃料が臨界になった可能性はないと判断できる。	水素爆発の影響で大規模な燃料損傷が生じた可能性があり、その場合の発熱や臨界の可能性についても検討する必要がある。
7	4号機建屋の爆発原因	① 4号機の建屋爆発原因は3号機で発生した水素だと考えることが合理的である。 ② 建屋の損傷には約400kgの水素が必要。放射線分解で発生する水素源とはなり得ない。	国会事故調報告書: 建屋の爆発原因が3号機からの水素だと定量的な評価は現段階ではできない。 政府事故調報告書: 放射線分解説は傾聴に値するが、損傷状況と符合しない。

詳しくは原子力規制委員会ホームページ「東京電力福島第一原子力発電所事故の分析中間報告書」参照。<http://www.nsr.go.jp/data/000069286.pdf> 以上

This entry was posted on Tuesday, September 18th, 2018 at 6:00 am and is filed under ??????????, ?? You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.

